

令和6年度 第4回 渋川市市政モニターアンケート結果

渋川市は、市民の皆様から市政等に関する意見や要望をお聞きし、各種施策の推進や計画立案の参考とさせていただくことを目的に市政モニターアンケートを実施しました。

令和6年度 第4回 アンケートの集計結果は次のとおりです。

- 【調査対象】 令和6年度市政モニター44人（公募10人・団体推薦34人）
＜モニターの要件＞
- ・市内に住所を有する18歳以上の人
 - ・公務員や地方公共団体の議員などでない人
 - ・同一世帯に市政モニターに応募しようとする者がいない人
- 【実施期間】 令和7年1月9日（木）～1月31日（金）
- 【実施方法】 アンケートフォームによる（一部、書面（郵送）調査）
- 【実施内容】
1. 「第2次渋川市中心市街地活性化プラン」について（問1～問7）
 2. 渋川市地域福祉センターについて（問8～問14）
- 【回答状況】 アンケート調査回答者：38人（20歳代～80歳代）
回答率：86.4%

参考

＜アンケート回答者の情報＞

- (1) 居住地 渋川地区（17人）、伊香保地区（4人）、小野上地区（2人）、子持地区（6人）、赤城地区（5人）、北橋地区（4人）
- (2) 年 齢 20歳代（4人）、30歳代（8人）、40歳代（4人）、50歳代（2人）、60歳代（9人）、70歳代（8人）、80歳代（3人）

渋川市

（広報室）

令和6年度 第4回
渋川市市政モニターアンケート結果

1. 「第2次渋川市中心市街地活性化プラン」について

市は、中心市街地活性化法にある「公共施設や商業施設などの多様な都市機能が集積した地域であり、衰退傾向にあること」などの要件や市の都市計画事業などとの整合性から、下図の地域を中心市街地に設定しています。この地域が活性化し、周辺地域と連携することで、持続可能な渋川市となることを目指し、対象エリアのまちづくりの目標や基本方針、具体的な実施計画などを掲げたものが「渋川市中心市街地活性化プラン」です。市は、このプランに基づき、各種施策に取り組み、中心市街地の活性化を推進してきました。

現在の計画（第2次渋川市中心市街地活性化プラン）の期間は、平成31年4月～令和11年3月までの10年間としており、今後、社会情勢の変化に対応するため、各種関連施策の進捗状況を点検・評価し、現状に見合った実施事業の見直しを進めます。



問1 あなたがよく買い物に行く場所はどこですか。

- ①中心市街地（渋川市）（1人・2.6%）・
- ②中心市街地の大型店（渋川市）（5人・13.2%）
- ③郊外の大型店（渋川市）（23人・60.5%）
- ④コンビニ・その他商店（渋川市）（5人・13.2%）
- ⑤前橋市・高崎市の店舗（2人・5.3%）
- ⑥吉岡町の店舗（4人・10.5%）
- ⑦その他の地域の店舗（1人・2.6%）
- ⑧インターネット（0人）

年齢別回答状況

単位：人

()は人数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	合計
20歳代(4)	1		2	1					4
30歳代(8)		3	1	2	1	2	1		10
40歳代(4)			4						4
50歳代(2)			2						2
60歳代(9)		2	3	2	1	2			10
70歳代(8)			8						8
80歳代(3)			3						3
合計(38)	1	5	23	5	2	4	1	0	

※30歳代と60歳代で複数回答あり

「③郊外の大型店（渋川市）」は、全ての世代から選択される回答となりました。
 「①中心市街地（渋川市）」、「②中心市街地の大型店（渋川市）」、「③郊外の大型店（渋川市）」、「④コンビニ・その他商店（渋川市）」を選択したのは34人（89.5%）で、ほとんどの人が「よく買い物に行く場所」として「市内のお店」と回答しています。

問2 中心市街地の悪い点は何だと思いますか。

<簡易抜粋>

- ・品揃えが少なく、SNS等の情報発信もなく魅力を感じない。
- ・道路が狭くて駐車場も狭い。品揃えや価格でメリットを感じない。店舗が集約されていないため店舗間の移動が面倒。活気がなく購入意欲がわからない。
- ・若い人が入りたくなるようなスポーツジム、ゲームセンターなどが街中にあってもよい。
- ・中心市街地では日常生活に必要な物が買えないので、何でも揃う大型スーパーに行ってしまう。
- ・悪い点ではなく、大型店が少ないので使い勝手という意味では交流人口が少ないのではないかと思う。
- ・駅前に大きい市街地マップが見当たらない。改札からロータリー側の方に市街地マップ(商店中心の)とかあればいいのでは。

問3 上記「問2」の回答内容の改善への意見や、中心市街地がどんな街になったら良いと思うか教えてください。

<簡易抜粋>

- ・車でアクセス出来て駐車場完備の街。若者が行ってみたい、住みたい、働きたい、そんな魅力ある街。
- ・どうしても利便性や品揃え、車での乗り付けやすさ等で郊外店舗に及ばない場合が多いので、無理に張り合わず学生や観光客をターゲットにしたら良いと思います。
- ・「こんな店がある」というわかりやすい案内。市民の特典があればいいのでは。
- ・駅周辺の空き家、所有者不明の物件を解体し新しく駅近くに住宅街を設ける。
- ・子連れでも行きやすいお店（スーパーとドラッグストアが隣同士とか）地上の駐車スペースが広い方が助かる（屋上は大変）。
- ・総合施設のような1箇所ですべてが揃うような施設があったほうが良い。
- ・大型店がないことが今となっては強み。個人商店や住民を巻き込むお祭りやイベントの開催や行政整備があると活性化するのでは。
- ・さびれた店舗や閉店した建物を有効活用してほしい。
- ・電車で遊びに来れるような施設があったらいいと思う。

問4 中心市街地を活性化するためには、何を優先すべきだと考えますか。

<簡易抜粋>

- ・SLをアピールしたり、歩行者天国をもう少し増やしたりしたらどうか。
- ・SNS等の情報発信。駐車場の確保。空き店舗（家）のリノベーション。伊香保温泉等観光産業との連携。
- ・若い人（免許を取れない・取っていない、公共交通に頼らざるを得ない）人たちが中心市街地で遊べるような店舗・施設があると良いのではないのでしょうか。先日茨城県の石岡市に行きましたが、駅前にスケボーパークが整備されていたのが印象的でした。
- ・街中にはいくつもの公園がありますが、中にはほとんど使われていない公園もあります。点在する公園を集約して駐車場を併設。そこに商業施設をつくっていくことで人が集まりやすくなり活性化につながると思う。
- ・そもそも中心市街地を石原、行幸田、半田、中村、有馬あたりを検討できないのか。高崎渋川バイパスが開通し、車の便がよくなり今後もこの地域へ人が集まることが予想できる。
- ・敷島駅前の活性化を図っている「えんがわ」のような箇所を設ける。高校生・通行人が気軽にお茶のみできるように整備する。
- ・広場を作り、イベントがいつもそこで開かれていて、今何をしているか発信していて、空いていれば誰でも簡単に利用可能みたいな場所があれば、キッチンカーとかテントの店がやってこないですか。
- ・お店、駐車場の紹介のチラシ、サイトがあると嬉しい。
- ・核となる施設を整備する。祭り会館及び地元の食材を生かした食事の提供。地元のまんじゅうを集約したまんじゅう横丁。創作こけしの販売と体験など。

問5 中心市街地の活性化への行政の関わり方として、最も当てはまると思うものを選んでください。

- ①行政が率先して取り組むことが必要 (6人・15.8%)
- ②商業者や地元住民が率先して取り組み、行政は支援を行うことが必要 (6人・15.8%)
- ③市民、商業者、行政が一体となって協働で取り組むことが必要 (24人・63.2%)
- ④商業者や地元住民等に任せて、行政はあまり関与する必要はない (1人・2.6%)
- ⑤その他 (1人・2.6%)

<その他意見>

- ・市議たちが活性化に向けてまとめることが必要

「③市民、商業者、行政が一体となって協働で取り組むことが必要」は、全ての世代から選択される回答となりました。

年齢別回答状況						単位:人
()は人数	①	②	③	④	⑤	合計
20歳代(4)	1	1	2			4
30歳代(8)	1	2	4		1	8
40歳代(4)	1		3			4
50歳代(2)			2			2
60歳代(9)			8	1		9
70歳代(8)	2	2	4			8
80歳代(3)	1	1	1			3
合計(38)	6	6	24	1	1	

問6 中心市街地を活性化するために、あなたが貢献できることはありますか。最も当てはまると思うものを選んでください。

- ①中心市街地へ訪れる機会を増やす (8人・21.1%)
- ②歴史資源の活用に参画する (2人・5.3%)
- ③にぎわい創出イベントに参加する (3人・7.9%)
- ④公園・広場の整備に参画する (2人・5.3%)
- ⑤地域と連携した取り組みに参画する (7人・18.4%)
- ⑥中心市街地で活動する組織の設立、または組織に参画する (1人・2.6%)
- ⑦SNS等で中心市街地の魅力を発信する (4人・10.5%)
- ⑧良いと思えるなら何でも協力する (9人・23.7%)
- ⑨行政に任せておけばよい (0人)
- ⑩関心がない (3人・7.9%)
- ⑪その他 (0人)

年齢別回答状況

単位：人

○は人数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	合計
20 歳代(4)	1			1			1	1				4
30 歳代(8)					1			6		1		8
40 歳代(4)					2		1			1		4
50 歳代(2)	1					1						2
60 歳代(9)	2	1	1	1	1		1	1		1		9
70 歳代(8)	3	1	2		1		1	1				9
80 歳代(3)	1				2							3
合計(38)	8	2	3	2	7	1	4	9	0	3	0	

※70 歳代で複数回答あり

回答数が最も多い「⑧良いと思えるなら何でも協力する」は、30 歳代の回答割合が多く、4つの世代区分から選択されています。次いで回答数が多い「①中心市街地へ訪れる機会を増やす」や「⑤地域と連携した取り組みに参画する」は、それぞれ5つの世代区分から選択されており、より多くの世代が選択した回答となっています。

問7 中心市街地の将来のあり方、整備の進め方に意見があれば回答してください。

<簡易抜粋>

- ・第2次プランについて、市民への周知・PRをされているとは思いますが、第1次プランの検証・評価を含め、その計画内容・実施結果・成果・効果・課題等に対する対策・改善などが我々市民に十分に伝わっていないように感じられる。「10のプロジェクト」の取組を終えた後には、中心市街地が「賑わいを取り戻し、住みたい・訪れたい街になるんだ」という希望と夢が持てるように活性化プランの整備（取組）を進めて欲しい。
- ・車を主な移動手段にしている人たちは、どうしても駅前や市街に足が向きづらいと思うので、いっそ運転ができない中高生をメインターゲットにして、学校帰りや休みの日に市から出なくても遊べるような街にしたら良いのではないのでしょうか。
- ・中心市街地はこうあるべきという考えをなくした上で、検討した方が良いと思います。表面的な面だけでなく、住んでる人の意見を実際に聞いて参考できると良いと思いました。
- ・駅前が閑散としていて寂しいなといつも感じています。イベントだけではなく、常時地元の人も観光客も両方が利用しやすい商業施設やそれに隣接された公園や広場があるのがいいと思います。
- ・今後の区画整備を含めコンセプトを明確にする。また、災害に強いまちづくりのモデルとなるような整備が望ましい。

2. 渋川市地域福祉センターについて

市は、老人福祉の増進を図ることなどを目的として老人福祉センターを設置しています。「①渋川地域福祉センター」、「②小野上地域福祉センター」、「③地域福祉センターこもちの湯」の3施設があり、高齢者以外の人でも気軽に利用できるよう、施設名を地域福祉センターに変更しています。

それぞれの施設に入浴施設を設け、市民の憩いの場として、健康増進や教養の向上など地域福祉の向上を図り、高齢者の明るい生活を支援しています。

これらの老人福祉センターの運営については、施設の老朽化や物価高騰による施設運営費用の上昇などの課題があります。特に、「渋川地域福祉センター」は、外部有識者で組織された「渋川市社会福祉施設等のあり方検討委員会」において、「廃止の検討をすべき」とされており、各施設の今後のあり方の検討が急務となっています。

<施設概要>

	①渋川地域福祉センター	②小野上地域福祉センター	③地域福祉センターこもちの湯
住所	渋川 3890-1	小野子 9-1	吹屋 658-20
建築年度	昭和 44 年	平成 11 年	平成 4 年
構造	鉄筋コンクリート造 平屋	鉄骨鉄筋 コンクリート造平屋	鉄筋コンクリート造 平屋

<各施設でできること>

①渋川地域福祉センター	②小野上地域福祉センター	③地域福祉センターこもちの湯	
入浴		入浴（温泉）	
健康相談、マッサージ機または健康器具の利用			
カラオケ			
			地元特産品などの購入
卓球、囲碁・将棋、グランドゴルフなどのサークル活動			

<現在の施設利用料>

- 70歳以上の人、障害者、未就学児＝無料
- 65歳以上70歳未満の人、小中学生＝100円
- 市外の人＝300円
- それ以外の人＝200円

問8 地域福祉センターを知っていましたか。

- ①知っていた (22人・57.9%)
- ②知らなかった (16人・42.1%)

20・40歳代では、「①知っていた」と「②知らなかった」の回答数が半數ずつとなりました。30・50歳代では「②知らなかった」と回答した人が多い結果となりましたが、60歳代以上では、「①知っていた」の回答が多い結果となりました。

年齢別回答状況 単位:人

()は人数	①	②	合計
20歳代(4)	2	2	4
30歳代(8)	3	5	8
40歳代(4)	2	2	4
50歳代(2)		2	2
60歳代(9)	8	1	9
70歳代(8)	5	3	8
80歳代(3)	2	1	3
合計(38)	22	16	

問9 地域福祉センターを現在利用していますか。または、将来利用したいですか。

- ①現在利用している (または将来利用したい) (11人・28.9%)
- ②現在利用していない (または将来利用したくない) (21人・55.3%)
- ③わからない (6人・15.8%)

「②現在利用していない (または将来利用したくない)。」は、全ての世代から選択される回答となりました。「③わからない」と回答した人を除き、30・60・80歳代では、半數以上が「①現在利用している (または将来利用したい)。」と回答しました。

年齢別回答状況 単位:人

()は人数	①	②	③	合計
20歳代(4)		4		4
30歳代(8)	3	3	2	8
40歳代(4)		4		4
50歳代(2)		2		2
60歳代(9)	4	4	1	9
70歳代(8)	2	3	3	8
80歳代(3)	2	1		3
合計(38)	11	21	6	

問 10 現在、利用者全体の 9 割以上が無料で施設を利用しています。これを踏まえ、利用料金に関する考えで当てはまるものを全て選んでください。

- ①「70 歳以上の人、障害者、未就学児＝無料」からも料金徴収した方がよい
(9 人・23.7%)
- ②「65 歳以上 70 歳未満の人、小中学生＝100 円」の料金改定をした方がよい
(10 人・26.3%)
- ③「市外の人＝300 円」の料金改定をした方がよい (10 人・26.3%)
- ④「それ以外の人＝200 円」の料金改定をした方がよい (7 人・18.4%)
- ⑤特になし (17 人・44.7%)

年齢別回答状況

単位:人

()は人数	①	②	③	④	⑤	合計
20 歳代(4)	2	2	1		2	7
30 歳代(8)	1	2			5	8
40 歳代(4)	1	1	1	2	3	8
50 歳代(2)	1		1	1		3
60 歳代(9)		2	4	2	3	11
70 歳代(8)	2	3	3	2	3	13
80 歳代(3)	2				1	3
合計(38)	9	10	10	7	17	

2 番目に回答数の多い「②「65 歳以上 70 歳未満の人、小中学生＝100 円」の料金改定をした方がよい。」及び「③「市外の人＝300 円」の料金改定をした方がよい。」が、5 つの世代区分から選択されているのに対して、4 番目に回答数の多い「①「70 歳以上の人、障害者、未就学児＝無料」からも料金徴収した方がよい。」は、最も回答数の多い「⑤特になし」と同様に、1 つの世代区分を除く 6 つの世代から選択される結果となりました。

問 11 「問 10」の回答の理由や具体的な考えを教えてください。

<簡易抜粋>

- ・老朽化や運営費用上昇への対応、さらなるサービス向上を目指し、魅力ある施設にする為には利用料金改定（アップ）が必要。
- ・利用者の方と色々な話をしますが、地域の交流であったり会話の場であったりで、高齢化社会では重要な役割を担っていると思います。75歳以上を無料としてもいいかと思えます。
- ・生活保護や非課税世帯でも安く入れたらいいのでは。
- ・高齢者の健康寿命を延ばすことが介護医療費の負担減に繋がると思うので、廃止して居場所がなくなるより存続して高齢者の居場所づくりを継続していくのも、元気な高齢者を増やすために必要なのではないかと思う。
- ・利用料金は、全ての入場者から徴収した方がよい。
- ・料金の値上げや有料問題は難しいです。利用者が減少するのではないか。
- ・市民ファーストとして、市外の方はもう少し高めに設定し、市民もプラス 100 円位にする。
- ・特に料金の改定は必要ないと思う。(利用すれば飲食などで貢献してもらえる)

問 12 「廃止を検討すべき」とされている渋川地域福祉センターについての考えで当てはまるものを教えてください。

- ①廃止すべき (11 人・28.9%)
- ②継続すべき (16 人・42.1%)
- ③その他 (11 人・28.9%)

<その他意見>

- ・どのぐらいの利用者がいて、地域の役に立っているのかわからないため判断がつかない。
- ・必要としている利用者があるのであれば無理のない範囲内で継続すべき。
- ・利用したことがないため、どちらとも言えない。

最も回答の多い「②継続すべき」が5つの世代区分から選択されているのに対して、「①廃止すべき」は6つの世代区分から選択される結果となりました。回答者の居住地区別の回答状況では、「②継続すべき」のみ、全地区から選択される結果となりました。

年齢別回答状況 単位:人

()は人数	①	②	③	合計
20 歳代(4)	2	2		4
30 歳代(8)	1	3	4	8
40 歳代(4)	1		3	4
50 歳代(2)			2	2
60 歳代(9)	3	5	1	9
70 歳代(8)	3	4	1	8
80 歳代(3)	1	2		3
合計(38)	11	16	11	

問 13 「問 12」の回答の理由を教えてください。

<簡易抜粋>

- ・人口減少に伴い縮小が必然と考える。
- ・高齢者だけでなく「市民の憩いの場」としての存在価値を再構築させ継続すべき。外部有識者の討委員会で出された「廃止の検討をすべき」という結果が出たからといって「廃止ありき」の検討だけを進めるのではなく、老朽化や運営費用の課題を問題視したうえで、どうしたら現状の施設を存続させ「憩いの場として高齢者や市民の明るい生活を支援する施設」にできるか、という前向きな検討をすべきではないか。
- ・利用者の方は本当に楽しみにしています。会話の場所を残して欲しいです。からだと心のケアが出来る場所として残してもらいたい。
- ・施設の場所を見ると車での移動が前提になっている。高齢者の多い団地から遠い。
- ・築年数を考えても老朽化が懸念されるため。利用者には他施設の推薦などできないものか。
- ・やっていることは良いと思うし、子どもにとっての児童館とかと意味合いが同じだと思ったから。

問 14 地域福祉センターは、高齢者の居場所の1つですが、高齢化社会が進む中で、「高齢者の居場所」について意見や考えがあれば教えてください。

<簡易抜粋>

- ・地域の自治会館を有効利用をしていただくようにした方が良いと思います。
- ・高齢化が進めば、今まで以上に「一人暮らし」「ひきこもり」「うつ」の方々が増え孤立する高齢者も増加する。その「孤立」を防ぐために、自宅以外でも「気楽に・自由に」立ち寄ることができる「居心地のよい居場所」として地域福祉センターを提供し、高齢者の社会参加や介護予防等をサポートすることは非常に重要なことだと考える。
- ・日常的に外の空気を吸って他人と会話することが、結果的に健康寿命を延ばして医療費を抑えることにもつながるのではないのでしょうか。特に渋川老人センターはバス停からほど近く、免許を返納された方や運転をされない方が気軽に行ける貴重な場所です。
- ・自分で動けるうちはこうした施設があることで人との交流や健康の増進につながると思われる。
- ・高齢者が行きたい、やりたい場所は、街中のショッピング、スポーツジム、映画、旅行等々いっぱいありますよ。無料の公共施設を作らなくてもいいと思います。必要なのは、そこへ行くための移動手段です。自由に低料金で行けたら元気で明るい高齢者になります。
- ・地域福祉センターを廃止する代わりに公民館に「高齢者の居場所」を設けるように改良。また、地域にある住民センターに高齢者の居場所を設けたところには助成する。
- ・高齢者、高齢者と言いますがサポートできる情報が的確に伝わっていない。官・民一体での訪問含め、何をしてほしいか直接面談が必要。